

氏名	浮 田 実
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 917 号
学位授与の日付	昭和 52 年 12 月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	肝性昏睡の臨床的研究 第 1 編 臨床像ならびに検査成績 第 2 編 臨床経過ならびに予後について
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 大藤 眞 教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

最近 17 年間に岡山大学医学部附属病院第 1 内科に入院した肝性昏睡 102 症例を対照として、肝性昏睡の病態像を明らかにすると共にその予後につき時代的変遷を検討した。

第 1 編では、肝硬変に伴う肝性昏睡を末期に出現する急性型と、代償期に出現する慢性型に大別し、その病態像を明らかにした。Fulminant hepatitis と亜急性肝炎は両者を区別して取扱うのが妥当だと考えられた。

第 2 編では、上記各症例の臨床経過を検討し、肝硬変においては、肝性昏睡の急性型症例はその大多数が肝性昏睡の発生後 2 週間以内に死亡しているが、最近 5 年間に昏睡発生後死亡までの期間の延長が見られた。その反面、最近 5 年間の症例では肝癌合併例の急激な増加と肝腎症候群を呈する例の増加が顕著であった。肝性昏睡の慢性型症例は初回肝性昏睡から死亡までの期間は平均 2.5 年であった。

Fulminant hepatitis では、1 週間以内に昏睡から覚醒した例は完全な回復を示した。亜急性肝炎では肝性昏睡に陥った例はすべて 2 週間以内に死の転帰をとった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は肝性昏睡について臨床的に研究したものであるが、従来十分解明されていなかった肝性昏睡の病態像及びその予後の時代的変遷について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。